

「NIE(教育に新聞を)」全国大会に参加して考えたこと

開倫塾

塾長 林明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 一昨日の8月1日と昨日の8月2日に、宇都宮市で第24回NIE全国大会がありました。NIEということばをあまり聞いたことがない方が多いと思いますが、NはNewspaper(新聞)、IはIn、EはEducation(教育)の略で、「教育に新聞を」という意味です。その全国大会が宇都宮市文化会館で開かれ、私も参加させていただきました。全国から1000名以上の方がおみえになって、どうしたら新聞を教育に生かせるかというディスカッションが行われました。私もいろいろな勉強会に出させていただきました。
3. 8月2日のパネルディスカッションには、パネラーとしてお招きいただきました。そこでは、「新聞社の出前授業がこんなに楽しい」というのが1時間半ありましたが、あっという間に終わってしまいました。このパネルディスカッションには、朝日新聞の方、毎日新聞の方、読売新聞の方、産経新聞の方、東京新聞の方、司会をなさった下野新聞社の地域センター長の岩村由紀乃さん、出前授業をされた宇都宮市立陽東小学校の先生と宇都宮市立陽西中学校の先生、そして林明夫が参加し、どのようにしたら新聞社の出前授業を教育現場で活用できるかという話をしました。実際に学校でも開倫塾でも年に何回か新聞記者の方をお招きして、「新聞ができるまで」という内容のお話をお伺いしています。
4. 私は40年ぐらい前に開倫塾という塾を始めたのですが、塾生の前で新聞ができるまでのお話をしてくださいということで、最初の年から近くの新聞記者の方をお招きして年に数回お話を伺ってきました。それは、毎回ものすごい効果がありました。
私がいくら新聞を読むといいよといっても、なかなか読んでくれませんでした。ところが、新聞社の方、特に実際に記事を書いたり編集をしたりする記者の方がいらして、苦勞をなさって新聞を作っているお話をしてくださると、その当時はほとんどの家で新聞を取っていましたから、新聞を読んでいろいろなことを知ろうという気持ちになったようです。
5. 昨日のディスカッションでは、新聞社の方からいろいろなことをお伺いしました。やはり新聞記者の方は取材なされる前に準備をするそうです。当たり前といえば当たりのことですが、取材で人と会うときは、お伺いしたいことを20項目ぐらい予め考えてから行くそうです。適切な質

問ができるように、それが役に立つ記事になるようにと、非常に熱心の下調べをして質問を考えます。また、相手の方も非常に忙しい中で会ってくださるので、ものすごく熱心に準備をして取材をします。それを 5W1H(いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのようにしたか)で記事にします。

そのようにして書かれた記事がいっぱい集まります。しかし、全部を載せるわけにはいきません。編集者の方が、そのときに一番大切だと思われる項目を上手く編集してまとめます。こうして、いろいろな新聞ができています。下野新聞は栃木県内のことが主ですが、先程お話した朝日新聞や毎日新聞、読売新聞、産経新聞、東京新聞などの全国紙には、日本全国や世界のことについての様々な記事が掲載されています。

6. 新聞社の方は、このような内容のことを学校や開倫塾に来てお話して下さいます。それを、子どもたちは興味を持って目を輝かせて聞いています。ですから、子どもたちが新聞を読む世になるために、これはすばらしい効果があります。

7. 開倫塾の今までの取り組みの中で特によかったのは、新聞記者の方と一緒に販売店の方をお招きしてお話をしていただいたことです。それは、新聞が配達されるまでというお話です。新聞が毎日毎日、雨の日も風の日も雪の日も各家庭に届くのは、新聞配達の方のおかげです。こちらが恐縮するほど、台風の日も正確に、雨の日はビニールをかぶせて、すぐに読めるように届けてくれます。

このような新聞配達の方の苦労話などを聞くと、子どもたちもこんなに一生懸命に届けてくださるのだから、私たちも新聞をちゃんと読まなくてはとなって読んでくれます。

8. 新聞記者の方や新聞配達の方のお話を聞くと、新聞が身近に感じられて毎日読むようになります。「教育に新聞を」という NIE 全国大会が宇都宮市で開かれましたので、放送をお聴きの皆様にも新聞に関心を持っていただければと思います。